

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0660 ◆◆◆

21/11/04

## 【 11月はドル高有利、今年も期待感強い 】

先週末に終了した10月のドル/円相場は、月間変動幅が3.87円となり、今年2番目の大変動を記録した。そしてザラ場ベースでも一時114.69円を付け、2017年11月以来のドル高値を示現している。次なる動意に期待を抱かせる10月相場が終わり、名実ともに11月相場入りするなか、果たして如何なる動きをたどるのか。今回の当レターでは、恒例となっている経験則をもとにした11月の月間見通しをレポートしてみたい。詳細は後述するとして、幾つか興味深い事象があるのだが、とくにとなると「月間を通してドル高有利の傾向」があることは覚えていて損はない気がしている。

### ◎11月はニュースの観点も要注意、「中国恒大」デフォルトなどの懸念も!?

為替市場関係者のあいだでも、よく取り沙汰される話として、「年末にかけてドル高進行しやすい」ーというモノがある。これは需給要因からも、ある程度説明付けられ、そのひとつとされるのは先週の当レターでもレポートした海外勢による「12月末本決算をにらんだ『リパトリエーション(本国送金)』の活発化」だ。

もちろん、この話自体は間違っていないのだが、実を言うと12月よりも11月にドルは堅調推移することが多く、12月は「そのおこぼれを頂戴する」といった程度の動意にとどまる展開が少なくない。そうした意味で、本当に「ドル高要注意」なのは、12月ではなく11月とも言えるだろう。

実際、過去の11月相場を振り返ってみた場合、1990年以降昨年まで31年間の勝敗は20勝11敗。勝率にして6割越え、3回に2回程度はドル高に振れているわけだ。先でも指摘したように、「かなりのドル高有利」と言うことに疑いはなく、「年末ドル高」の萌芽は、11月からすでに始まっているといっても間違いはない気がしている。

また、そんな11月のドル/円相場には、もうひとつ「月間の変動幅そのものが比較的大きい」という特徴がうかがえる。典型例は2016年で、11月の月間変動幅はなんと13.36円。ぶっちぎりの年間1位となる大変動だった。

そのほか2014年は月間変動幅6.41円で同2位、2013年は5.01円で同5位、2010年は4.18円で同5位、2009年は6.51円で同5位、2008年は7.01円で同4位、2007年は8.71円で同1位ーなどとなっている。とくに2000年以降は、総じて大きな価格変動をたどっていることは注目に値するポイントだろう。今年のドル/円相場はここ2ヵ月、9月そして10月と少しずつ月間変動が大きくなっているだけに、三段跳びの要領で11月相場のさらなる大変動も期待せずにはいられない。

一方、過去の11月をニュースの観点から調べてみると、世界的に見て政治的な大事件が少なくない。一例を挙げると「徳川慶喜が大政奉還上奏(1867年)」や「ロシアの十月革命(1917年)」「第一次世界大戦が終結(1918年)」「原敬首相が刺殺される(1921年)」「ケネディ米大統領暗殺(1963年)」「ベルリンの壁崩壊(1989年)」などがある。

また、同一視してはいけないのかもしれないが、昨年は3日に実施された米大統領選で勝者がなかなか確定せず。そのうえ、確定後に敗北を喫したトランプ氏が「選挙に不正があった」として敗北宣言を拒否し、法廷闘争に持ち込んだことも記憶に新しいところだ。何かとトラブルが起こりやすい一ヵ月なのかもしれない。

さらに、それとは別に「日本での天変地異が多い」とことと「世界的な著名企業などの破たんが目立つ」ことも、過去の11月の特徴のひとつ。

前者はここ最近、関東圏などで震度4以上とやや大きめの地震が多発していることが気になるうえ、後者についても、一例を挙げると再三再四にわたって金融市場で「バブル崩壊」などが取り沙汰される「中国不動産リスク」、とくに「恒大集団」のデフォルトを連想せずにはいられない。各種報道によると、綱渡りのようになんとか利払いなどが維持されている状況だが、いよいよ切羽詰まった状況に陥る危険性もある気がしている。頭の片隅にでもとどめておいて損はなさそうだ。(了)

